

校長室からのお知らせ

7月8日 NO.14

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

怒らず 叱る

「怒る」と「叱る」は、似ているようですが、全く違うと考えています。例えば、プロ野球の元監督であった野村 克也さんは「怒るは感情のまま。叱るは愛情がないとできない。」の名言を残されています。また、「怒ることは暴力を生み、叱ることは知恵を育む。」や「怒ると問題は解決せずかえって問題を増やすが、叱ると問題の解決策が見つかる。」なども納得される方が多い名言だと思います。

「怒るとは、感情的に相手を責め関係や問題を悪化させる手段。叱るとは、理性的な指導で相手を成長させ問題を解決する手段。」とまとめることができます。

では、どのような場面で叱らなければならないのかと聞かれますと、次のように答えようと思います。

① 命にかかわること

子どもが危険なことをしていたり、危険なことをしようとしていたら叱らなければいけないと考えています。叱ってあげなければ、子どもから危険なことを認識する機会を奪うことになると思います。

② 人の不幸のうえに自分の幸せを築くこと

人がどれほど傷ついても自分が楽しければそれでいい、という考え方は許されないことだと考えます。人をいじめたり、ばかにしたり、からかったりして楽しむ子どもを育てたいと願う大人はいないはずで

そのほかにも、道徳や社会のルールを守らせるために叱る、人間関係を壊してしまうような言動をさせないために叱るなど、子どもの健やかな成長を願って叱る場面は多々あると思います。

「叱り方」については、保護者のみなさまの個性をフルに発揮していただき、全身全霊で子どもに向き合っていたいただきたいと思います。ただ、体罰や家の外に放置するなどは、やめてください。お願いいたします。